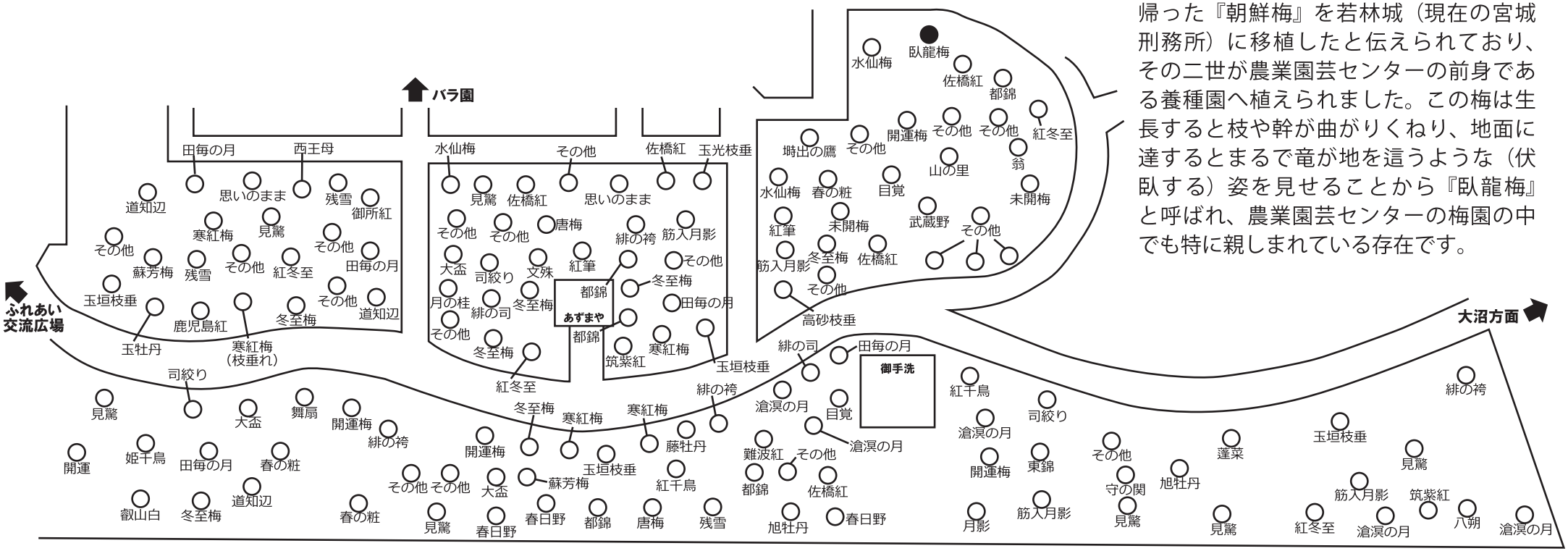
仙台市農業園芸センター　みどりの杜　農と触れ合う交流拠点

梅を観る会

梅園マップ



知ってる？

梅園の『臥龍梅』はあの伊達政宗公と関係があった！

仙台藩主伊達政宗公が文禄 2 年（1593 年）征韓の役に出陣した際、彼の地から持ち帰った『朝鮮梅』を若林城（現在の宮城刑務所）に移植したと伝えられており、その二世が農業園芸センターの前身である養種園へ植えられました。この梅は生長すると枝や幹が曲がりくねり、地面に達するとまるで竜が地を這うような（伏臥する）姿を見せることから『臥龍梅』と呼ばれ、農業園芸センターの梅園の中でも特に親しまれている存在です。

養種園時代からの梅園の歴史について

養種園では昭和 40 年代の始めより茨城県水戸市からの支援を受け本格的な梅の増殖を実施しました。市民が鑑賞できる梅園が誕生したのは昭和 48 年のことです。平成元年に農業園芸センターへ施設が移転した際にすべての梅が現在の梅園へと移植されました。

梅を観る会について

養種園にて『梅を観る会』が初めて開催されたのは昭和 52 年の春で、それ以降春のイベントとして毎年 3 月下旬～ 4 月上旬頃に開催しています。震災の影響により 2011 年より休止、または不定期での開催となっておりましたが、今回より恒例イベントとして再開いたしました。